

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3392200055		
法人名	有限会社 創和		
事業所名	グループホーム 桃の里 1・2階		
所在地	岡山県赤磐市下仁保100番地		
自己評価作成日	令和元年11月5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=3392200055-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ライフサポート
所在地	岡山市北区南方2丁目13-1 県総合福祉・ボランティア・NPO会館
訪問調査日	令和1年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・創和の理念、方針に基づいた介護を提供しています・地域の方々との交流を大切にし、ボランティアや地区のお祭りへの参加等、外部との関わりを積極的に持つようしています。・ご利用者様一人一人の心に近い距離で、ご本人様・ご家族様の希望に沿った支援を。また自宅の延長のような生活が送れるよう介護を行っています。ご利用者様の”今”の状態を出来るだけ長く、少しでも自分で出来る様又出来た時の喜びを持ってもらえる様対応しています。・介護経験のない職員の介護技術向上・指導を行っている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

赤磐市でGH「桃の里」を始め、小規模多機能、サ高住、デイサービス等を運営する法人(有)創和には全体で100名程の職員がいて、法人内異動もある。女性管理者が産休に入ったのを機に、今は両ユニットの管理者を任されている男性職員も異動組の一人だ。「外部評価をどう思うか？」の質問に「客観的に見てくれるので、評価が参考になる」と嬉しい言葉が返ってきた。利用者の事を第一に考え、理念に沿ったホーム運営を常に模索しながら前向きに奮闘している姿に頼もしさを感じた。今の介護業界は慢性的な人手不足という問題を抱えているホームも多い中、技術的な面では様々な課題があるものの、利用者笑顔で優しく接している職員のコミュニケーション能力は高く、利用者同士も和気あいあいとした雰囲気でお話もよく聞こえてくる。これからも地域密着型ホームとしての良さを発揮しながら地域交流に取り組んで下さい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	訪問者、見学者には挨拶をこちらからするようにし、気楽に見学していただけるようにしている。理念を皆が見える所に掲示し、確認できるようにしている。	職員主導ではなく、あくまで利用者が主役である事に徹し、理念を念頭に置きながら利用者の心に寄り添い安心して暮らせる環境作りに努めている。そして新任・現任職員にも常にそう思ってもらいたいと管理者は願っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、夏のボランティア、中学生の職業体験の受け入れをしている。地域行事への参加、散歩時に近隣住民との交流も行っている。地域の方の傾聴ボランティアも受け入れられている。	町内の夏祭りに招待される等、地域との交流に地道に取り組んできた成果もあり、交流の幅が年々広がってきている。イベント時には大正琴・傘踊り・コーラス等の様々な地域のボランティアの参加もあり、利用者も楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望のご家族や見学の方に施設室内や説明を行っている。利用者とのかかわりについても話をしている。認知症相談会を行ったこともある。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、運営推進会議を行っている。会議の際は多くの意見交換がありサービス向上に繋がっている。地域の夏祭り、秋祭りにも毎年参加させて頂いている。	毎回多彩なメンバー構成で運営推進会議を開催しており、行政の他に各役職の地域住民代表の参加が多い。議事録を見ても、活動状況、ヒヤリハット・事故報告、身体拘束に関する事例紹介、災害対策等、様々な議題で意見交換をしている。	行政・地域住民の参加はあるが、家族の参加がないので、従来の案内方法ではなく、参加しやすい工夫を皆で考えて欲しい。議事録の参加者の意見・要望も少ないので、もう少し詳細な記録が欲しい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域の傾聴ボランティアさん、中学生ボランティアの受け入れをしている。	毎回運営推進会議に包括職員の参加があり、情報交換や相談等をしている。防災計画について市の防災課の職員と話し合う事もあり、日頃から何かあると相談をして助言や指導をもらう等、良い連携が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全確保を優先し、玄関の施錠は行っている。帰宅願望の多い方には散歩に行ったり好きなことをしてもらっている。窓から外を見るのが好きな方は、雪が降ったり、車の音を聞いて喜ばれている。	現在、身体拘束を必要とする人はいないが、定められた通りに定期的に身体拘束に対する研修をして、言葉による抑止や身体拘束・虐待防止に対する認識を深めている。また、運営推進会議でも報告している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を立ち上げている。利用者にあつた会話のスピードや対応に心がけ、介助のより良い方法など、利用者にとって苦痛のないやり方など常に職員内で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	毎月短時間でも研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明し、十分時間をとって話し合った上でおこなっている。どんな些細な疑問点でもあげてもらおうようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の要望や言葉は皆で共有し対応できるようにしている。毎月家族への手紙の内容について面会時等に家族より良い話ができています。	家族の面会時に状況報告をして、積極的に家族からも意見や要望を聞くように努めている。毎月出している「家族への手紙」には近況報告の他に本人の発言を記載したり写真を添付して喜ばれている。家族も参加するクリスマス会を今年も予定しているとの事。	毎年のクリスマス会には家族の参加が多いと聞いている。協力的な家族が多いので、運営推進会議に一人でも多く参加してもらえよう働きかけをしてみてもどうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議の中で他職員の意見を聞き良いことは現場で反映している。	人員基準はクリアしているが、産休の職員が3名いる等、厳しい状況ではあるが、職員一丸となって日々の業務に取り組んでおりチームワークを大事にしている。社長夫婦も時々来所してくれるので、現状をよく理解しており、意見や要望を言いやすい体制がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎月の会議で出た意見等は本社へ伝え、改善してもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	他事業所へ見学や講習会等にてスキルアップを図っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修機会を用いたり、また自社他事業所との交流によって図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	新しい関係作りに気遣ったり、積極的にコミュニケーションをとり、生活歴など理解し、ケアの充実に努めている。日々の生活を通して、情報を集めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	出来るだけ家庭内での生活に近づけられる様に、可能な要望をお聞きし、入居後の生活の様子などを説明し、安心していただけるよう努めている。面会時には、生活の様子等話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家庭での状況、介護の仕方も念頭に置き、出来るだけ利用者が安心できるように接し、日頃の会話等で情報を共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の生活習慣や趣味等を理解し、一緒に生活を共にする家族の様な感覚で、出来ない部分のお手伝いをさせて頂いている。何気ない会話も記録し大切にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時はゆっくり過ごして頂けるよう配慮し、ひびのご様子をお伝えしている。また毎月の手紙を送り状態や生活の様子を伝えている。何か変化があれば面会時や電話等で連絡している。手紙に写真を貼り、面会に来られなくても顔を見れるようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行事やイベントなどで利用者の知人・家族の訪問を楽しみにしていることを伝えている。	日頃から家族・友人・知人等の面会があり、外出・外泊・旅行などにも家族と一緒に出かけ絆を継続しているケースもある。気の合う利用者同士もすっかり馴染みの関係になっており、日常的に誰でも気軽に訪問しやすい環境作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の不仲、嫌なことがあったと話を聞いた時はしっかり受け止め、同調するだけでなく、その方の良いところも伝えている。脳トレや作業等職員も間に入り、答え合わせをしあったり、喋りをしながら洗濯量など行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院時には定期的にお見舞いに行き、状態を聞き共有している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の希望、言葉や様子の変化を記録し職員間で共有している。ご自分の仕事や役割を持って頂き、継続することにより自信に繋がっている。	目標達成計画にも挙げて、利用者の発言や思いをしっかりと受け止めて記録に残し、職員間で共有しながら日々のケアに反映させようと努力している。意思表示が難しい場合は、表情や仕草から本人の思いを推察するように努めている。	介護記録には利用者の状況(発言・行動等)欄と職員の対応等の欄があるが、対応欄の記載が少ない。例えば不穏な行動には原因があり、どういう状況に対して、どのように対応したら、どうなったかというプロセスが分かるような記録があっても良い。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人が生活歴を語る時は、じっくり聞き、今後の生活に生かせるように心がけている。キーパーソンや家族の方からこれまでどんな暮らしをされていたか教えて頂く。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	どんな変化があったのか具体的に言葉、様子等を記録している。いい表情、出来なかった事が出来た時には写真に撮り、残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスで新しい問題点やアイデアを話し合っている。	本人・家族の意向を基に職員間で話し合っケアプランを作成し、残存機能を活かしながら役割を持って暮らしていけるようなプラン作りをしようと頑張っているが、身体機能面だけでなく、もう少し精神面が充実するような具体的な目標・サービス内容であっても良いと思う。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	申し送りノートやメモにて情報を共有している。本人言動も記録している。看護師も記録を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	難聴の方のご家族から集音器を提供して頂き、好きな音楽番組を楽しめている。食事では個々に合わせてその日のメニューによって刻みやミキサー食にしたり、柔軟な対応をしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	該当なし		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回の往診、定期受診、必要な時には主治医に連絡や受診にお連れしており、24時間対応の連絡体制をとっている。週2回マッサージの往診も行っている方や歯科往診も行っている。	ホームの協力医には緊急時等を含め365日対応してもらえるので安心出来る。職員に看護師を配置しているので日頃の健康管理に加え、ケガ等の軽微な処置がしてもらえ、医療連携もあるので心強い。本日も訪問マッサージを居室で受けている人を見かけた。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療的な問題は看護師に報告相談をしている。何かあればすぐ報告し、迅速な対応を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には、かかりつけ医に相談し、本人にとってベストな対応が出来る様心がけている。また、かかりつけ医とは些細なことでも相談できるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に「重度化の場合の指針」としてご家族に説明を行っている。主治医と家族で終末期に向けた方針を話し合うこともある。	昨年度は2名の看取りを行った。「最期はここで」という家族の希望もあり、家族・医師・看護師等と相談しながらホームで見送った。老衰だった。今もターミナルの人が3名おり、2名の看護師(非常勤職員)も緊急時には即対応出来る体制であり、職員は出来る限りの支援に努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応をシュミレーションし、慌てず対応できるよう意識している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練、消防署の方に指導して頂き、消火訓練を行っている。避難確認チェック表を作成したり、日頃から職員間でどう動けばいいか話し合っている。	運営推進会議と同日に避難訓練をして地域の人にも参加してもらったり、市の防災課の職員に講話をもらう予定との事。この地域は水害のリスクは少ないが、地震等の災害にはマニュアルを作成する等対策を講じている。建物の老朽化に伴い平屋にする構想があると聞いた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が安心できる様、一つの動作ごとに声掛け、確認し、ご本人の意思を尊重し、思いやりの心で、個々に接している。	プライバシー確保や言葉使いには日頃から気をつけているが、「～子さん」「～ちゃん」等、人によっては愛称で呼ぶ事もあり、安心・信頼出来る関係性を築くことも大切にしている。入浴介助の時、同性を希望する人には羞恥心に配慮して同性介助をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	無理なことも否定せず、納得いくまで会話したり、複数の選択ができるよう、可能な限り多くの提案をし、その中から選んでもらえるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせてご本人の意思表示を受け止めながら行っていただくようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時は鏡を見てご自分で髪を梳いて頂き、入浴後はご希望の方にローションをつけて頂いている。顔そりも時々行っている。職員が持って来たマニキュアを塗ることもあった。本人に合った化粧品も家族によっては持参され、必要時にはつけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	咀嚼状況を見て、無理なく食べられるようメニューに合わせて刻み、ミキサー食に変え、臨機応変に対応している。献立を毎食ノートに記録している方もいる。食事準備をしていると今日のメニューについて、カウンター越しにする会話を楽しみにしている方もいる。	ご飯・味噌汁はホームで作り、個々の食事形態に合わせて提供している。副食は同グループ会社の宅配を利用するようになってから「美味しい」と評判も良く、以前に比べ食べ残しの量が減ってきたと聞いた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	起床時やおやつの時等ご本人が飲みやすい物を個人に合わせて提供している。温かいコーヒーが好きな方にはミルク・砂糖も好みの通り提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々の口腔ケアを行っている。うがいができない方にはウェットティッシュを使用している。磨き残しのある方には仕上げ磨きも職員が行っている。毎日ではないが、食前に口腔体操を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄や表情、様子等を意識し、ご本に合わせて声掛けを行い、スムーズに誘導できるように心がけている。	布パンツ着用でトイレに自分で行く人もいるが、リハビリパンツやパット使用の人が多く、殆どの人に対してタイミングを見ながら声かけ、トイレ誘導をしている。清潔保持の為、個人用のおしり拭きをトイレに常備しているし、脱衣場と直結しているトイレもあるので、失敗時にも即対応出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂ってもらい、食事形態等に注意し、自然な排泄を心がけている。腹部マッサージや下腹に力を入れる声掛けも心がけている。下剤や便を柔らかくする薬も併用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	曜日、時間は決まっているが個々のタイミングや状況に合わせて行っている。入浴を楽しみにしている方が多く、入浴中も会話や歌を楽しんでいる。足浴、足のマッサージも行っている。季節によりゆず湯も楽しまれている。	半数以上の人は職員と一対一で楽しく会話をしながら一般浴槽でゆっくり入浴してもらっているが、車椅子の人はシャワー浴で対応している。拒否がある場合は無理強いせず、誘い方を工夫しながら最低週2回は入浴してもらうように努め、清潔の保持をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が希望する時間に臥床されている。快適に休める様温度、湿度管理も行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時の嚥下が出来ているか、水の量にも気を付け、困難な方にはとろみをつけ飲みやすくしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	指先の運動になるため、新聞折りやおしぼり巻き、洗濯畳等出来る喜び、自分の仕事として行ってもらっている。時にタオルを使った体操も行っている。役割を持って頂き、自信に繋げている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気のいい日には散歩に出かけたりし、季節の変化や外の空気、畑や木々を見て気分転換を図っている。	重度化も進み、全員が気軽に外出という訳にはいかないが、四季折々に花見や地域の祭り、ドライブ等に出かけ、時には喫茶店へコーヒーを飲みに行く事もある。家族も協力的で一泊旅行に出かけたり、自宅に寄ったり外食に行く等、個別外出支援もしている。また、ホーム周辺の散歩は良い気分転換になり、日光浴や外気浴を兼ねている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	週1回パン販売が来て、好きなパンを選んで購入して、出来る方はご自分でお金を払ってもらおう。ご希望に沿ってふりかけ等個人的に欲しいものを購入している。家族がお金を本人に渡して、本人がそのお金でパンを買うこともあり。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎月手紙を出している。電話は家族の方からが多いが、ご本人様のしたいときにはこちらからも電話をしている。お正月には年賀状を出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	動物が好きな方が居られるため、動物の写真を貼ったりしている。季節の花などテーブルの上に置き、明るく季節感のある、雰囲気作りをしている。雛人形、五月人形、クリスマスツリー等季節観を大切にしている。レクリエーションで作ったちぎり絵等も掲示している。	1階・2階とも広いリビングにはテーブルやソファが適度な間隔で配置され、仲良し4人組の楽しいおしゃべりの輪の中に私も入れてもらった。塗り絵、漢字ドリル等自分の好きな物に取り組みながら思い思いに過ごしており、清潔で明るい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	時間によっては一か所に集まり、会話をしたり、ゲームをしたりしている。家族に依頼し本を読んだり、椅子だけではなくソファへ横になることもある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ぬりえ等も自室に飾り、整理整頓に心がけている。家族より、本、CD、編み物等好きな時間に行っている。	立派な木の表札がかけてある居室は101歳のAさん。このホームの最高齢。居室のドアには大きな本人の写真が貼ってあり、皆自分の部屋と一目で分かる。いろいろな馴染みの物を持ち込み家族がレイアウトしている部屋も数多い。それぞれ居心地の良い居室になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	車いすのブレーキのバーの長さを調整し、無理なくブレーキ操作が出来るようにしている。立位等安全第一とし、気を付けるようにしっかり声掛けしている。支えが必要な方には手引き歩行時声かけしゆっくりでも歩いてもらっている。		